

## 第3回山梨市下水道事業審議会議事概要

日 時 令和2年9月23日 13:30～15:00

場 所 山梨市役所 502会議室

### 1. 開会

### 2. 議事 [出席委員：9名 事務局：下水道課長以下5名]

#### 議事① 前回の審議内容について

前回議事録を参照し、内容確認。

～上記議事に対して審議委員からの質問・意見なし～

#### 議事②③ 他市との比較について

- 交付税不交付団体である昭和町、忍野村の状況を調べ、料金と水洗化率をグラフに追加した。
- 下水道事業に対して繰入金の割合についての表の説明  
県内の市と比較すると山梨市は他市に比べ、先行して公営企業会計を採用し、中長期的な視点で経営戦略を立て料金改定を実施しているため、一般会計からの基準外繰り入れの割合0.28%と低く抑えることができている。
- 山梨市、甲府市、笛吹市はすでに公営企業会計であるが、それ以外の市は今年度から公営企業会計となったため、今後は、基準外繰り入れの割合も大きくなり、料金改定の必要性に迫られることが考えられる。
- 国交省 HP 掲載の平成30年度山梨県内の下水事業経営比較分析表の説明  
供用年数について、郡内を除くとほとんどが下水道が供用開始され約30年が経過している。
- 維持管理費において、水洗化率が低い、料金も低い市があるが、経費回収率が100%でないところは、使用料ではまかなえていないこととなる。
- 10年以上料金改定していないところは、12市町村ある。企業会計移行後はこれらの市町村も料金改定をしていくと考えられる。
- 国交省 HP 掲載の全国の平成30年度類似団体の下水事業の経営比較分析の説明  
人口3万人未満、人口密度1ヘクタール当たり25人未満、下水道事業開始15年以上の条件で抽出し、山梨市の水洗化率79%前後の18団体を抽出した。
- 経費回収率が100%を超えている5団体ですが、5団体の使用料の平均は6,350円となり、山梨市と2カ月当たり1,268円の差があることがわかる。
- 市内処理区ごとの水洗化率の比較について  
大きな団地がある処理区は水洗化率が高いところが多いことがわかる。また、供用開始が平成元年度、一番初めに開始した二つの処理区も水洗化率が高いことがわかる。  
日川地域と山梨地域が比較的低い状況である。ここを中心に接続率の普及活動を進めて

いきたい。

#### 議事④ 料金改定（案）について

前回、2つの料金改定（案）を示してもらいました。それでもこのコロナ時代に配慮したものをということで、前回示したパターン2の来年度4月からの料金改定を見送り、令和3年度以降に社会、経済情勢を見定める中で、改定時期を改めて審議していくものである。

（委員） 今示された改定案でよいと思う。

（議長） コロナの状況が収まるまで、今回の料金改定は見送りしていただきたい。

（委員） コロナの状況を鑑みて、来年度もう一度議論したらどうか。

（委員） 令和12年度までの基準外繰入を0にする目標はそのままにするのか。

そもそも人口減少していく将来において、基準外繰入を0にするのは難しいと思う。来年度、審議会を開いてもらい目標値から改定額までを話し合ってみてはどうか。

（委員） 削れる費用があまりないから料金改定を検討していると思う。早く基準外繰り入れを0にするのは良いことではある。目標をどこに設定するか、市民が納得できる案を検討してもらいたい。値上げについてなんでも先送りというのはいかなものかと思う。

（委員） 利用者負担が企業会計では基本である。値上げに賛成する人なんていない。値上げも一気に上げるのではなく、少しずつ上げてはどうか。

（議長） 来年度もう一度、改定時期も含めて金額も審議会でも検討してもらおうということではどうか。

（事務局） それでは、来年度改定時期だけではなく料金も審議会を開きコロナの状況を踏まえた中での審議会を実施するということで今回は改定を見送る結論ではどうか。

（委員） 異議なし。

（事務局） それでは、次回10月7日に答申案を事務局で作成するので、審議いただきたい。

（委員） 答申案は書面決議で行ってはどうか。

（事務局） 次回は書面決議との意見が出たので、書面決議を行う。

#### 議事⑤ 次回日程について

（事務局） 次回、予定していた10月7日は書面決議とします。最後の答申については、10月20日（火）を予定しているので、後日通知する。